２０２５年の日本の姿

２００２年６月１４日

２０２５年の社会の姿ワーキングチーム

ー　はじめに　ー

本報告書は、２０歳代後半から３０歳代前半の厚生労働省職員で構成する「２０２５年の社会の姿ワーキングチーム」（以下「WT」という。）が、約2か月半の議論を経て作成したものです。作成に当たっては、各メンバーの友人関係を頼り、省外の同年代から多数の有意義な意見をいただきました。

本報告書の記述内容は、すべてWT各メンバーの自由な意思に基づいており、厚生労働省始め政府による施策の実施を約束するものではありません。

◎　編集方針　◎

本報告書は、WT各メンバーが**「２０２５年の日本社会はこうあってほしい」**と考える姿を描いています。ただし、単なる夢物語やＳＦ小説とならないよう**実現可能性があると判断したものに限りました。**

☆　本報告書の構成　☆

本報告書は、次の４部から構成されています。

第１部　２０２５年の日本の姿（要約）

＃　WT各メンバーが本報告書全体を通して描きたい姿をまとめました。

第２部　２０２５年の高島さん一家の暮らし

＃　本報告書のメインとなる部分で、２０２５年のある子育て世帯の暮らしを物語風に記述しました。多様な生き方が選択できる社会におけるひとつの在り方と考えています。

第３部　２０２５年の家族の会話

＃　第２部で描ききれなかった主要な場面について、冗談を交えながら、会話形式で記述しました。

第４部　本報告書に対する若者の声

＃　本報告の原案に対し省内外の若者からいただいた意見を載せました。

第１部　２０２５年の日本の姿（要約）

本報告書で描こうとした社会の姿は、次のとおりです。

あわせて、それぞれの項目ごとに現状認識（２００２年の日本の姿）も示しました。今後、２０数年のうちに、この現状と本報告書で描いた姿の間を埋める努力を社会全体で行う必要があると考えます。ただし、多くの２０歳代、３０歳代は、**2025年になっても現状が継続し、又はむしろ状況は悪化すると悲観的に考えている者が多い**ことを付け加えます。

（社会経済）

○　日本の総人口は減少。平均余命が伸長し、高齢化率は上昇。**出生率は依然低迷するが(本報告書で描いたような社会が現実に達成されれば)上昇傾向**。一方、都市部の人口はほとんど変化なし。

○　**マクロ経済は安定成長。一人当たりの国民所得は上昇。**

（供給側）**女性、高齢者、学生が労働力化し、労働力人口の減少は比較的緩やか。**あわせて、科学技術の進歩やＩＴ化の一層の進展により**生産性も向上。国内生産は維持。**

（需要側）持続可能な社会保障制度の確立など将来に対する安心感から、過剰な貯蓄が消費に回り**一人当たりの消費量が増加**。あわせて、一層の高付加価値化により国際競争力を高め**海外需要が拡大。**

＜現状認識＞

- 出生率は更に減少し、高齢化率は一層上昇。
- 経済はゼロ成長又は若干のマイナス成長。失業率が高止まり。治安が悪化。
- 将来に対する不安から、過剰な貯蓄が生じ、消費が低迷。

（価値観・生活スタイル）

○　性別、年代を問わず、**結婚するかしないか、子どもを持つか持たないかは本人の自由という意識が浸透**するとともに、**子どもを産み育てることは社会全体で支えるものという認識が高まる。**

○　男女の役割分業意識はほぼなくなり、**夫婦による家事、育児の分担が一般化。**

○　仕事優先という考え方が少なくなり、それに伴い、**家族とのふれあい、趣味、地域活動などに充てる時間が増加。**

○　親子のふれあいが、子どもの人間性を高めるという考え方から、家庭の機能が見直され、**家庭学習や親子での地域活動などが盛ん**に。

○　子育て期間中も、自らの趣味や夫婦だけの時間を大切にする人が増える。

○　高校卒業後は、親から自立し、働きながら学ぶことが一般的に。その結果、若者の就労意欲が高まる。

<現状認識>

- 男女の役割分業意識はなくなりつつあるものの、依然として、男は仕事、女は家庭（家事、育児）という意識が強いため、女性の社会参画が制限的。また家庭における教育やしつけは母親任せ。
- 仕事かプライベートかといえば、社会的には「仕事優先」が求められている。
- 大学生時代の学費や生活費は、親にみてもらう人が多い。その結果、子どもには自立心が養われないし、親も子育て費用に重い負担感。社会に出てからも自立できないフリーターやパラサイトシングルが増加。
- 誰しも結婚し、子どもを持つものという考え方や結婚適齢期という考え方が根強い。

（社会保障全般）

○ **社会保障負担が勤労意欲や経済活力を阻害しない程度の水準で安定し、持続可能で安定的な社会保障制度が確立。**

○ **児童・家庭に対する社会保障給付の割合が増加。**

○ 社会保障制度の個人単位化が進むとともに、被用者保険の適用が大幅に拡大し、**就労の選択に中立的**に。

○ 各個人の保険料納付記録や給付に関する情報を提供できるようになることにより、その人の生活スタイルに合わせて**若い頃から老後までの生活設計が容易に。**

○ 一人当たり国民所得の増加により、国内外の様々な資産に投資するなど、私的な老後への備えが進み、**高齢者になっても公的年金等に依存する割合は減少。**

<現状認識>

- 年金制度の持続可能性に対する不信感があり、将来に対する不安、世代間の不公平感が強い。
- 児童・家庭に対する社会保障給付はわずか。

（子育て支援）

○ 多様な働き方の普及に伴って、**保育所の預かり時間が弾力化。**

○ 年間を通じて入所が容易になるとともに、一時預かり、在宅保育など**多様な保育サービスが充実**。多様な就業時間に的確に対応。子どもの急な病気時に良質な保育を行うサービス(**病児保育)も充実**。また、これらのサービスを**専業主婦や育児休業中の親も外出などの際に利用。**

○ 育児に関する相談、情報提供の充実により、**育児不安が解消**。

○ **地域のボランティアによる子育て支援活動が活発化。**

<現状認識>

- 延長保育は増えているが、就業時間の多様化などに十分対応できない状態。遠方の長時間保育を行う保育園へ送り迎えする親が多い。
- 専業主婦や育児休業中の親など育児に付きっきりの親は、育児の悩みを一人でかかえてしまったり、気分転換ができず苦悩。
- 子どもの病気が長引くと長期間の休暇を取らざるを得ない状況。

（雇用管理）

○　同一企業、同一職種における**時間当たり賃金**は、能力や成果を反映したものとなり、**フルタイムやパートといった１日の勤務時間による違いはなくなる。**

○　子育てに対する職場内での理解が進み、男女問わず、**育児休業や子どもの看護休暇、勤務時間の短縮などの制度が利用しやすくなる。**

○　労働者が**育児期間中に短時間勤務を選択しやすいよう、午前・午後のようなシフト制など**を取り入れるとともに、**派遣労働の活用や退職者の再雇用などで代替要員を確保。**

（働き方）

○　男女問わず、個人のライフスタイルに応じた**多様な働き方の選択が可能。**

○　**労働市場の整備により、転職や再就職が容易**になる。

○　価値観の変化を反映し、夫婦の働き方として、育児期間中を中心に、共にフルタイム（２人分）で働くのではなく、**夫婦で 1.5 人分の働き方を選択するケースが増加。**

○　夫婦共にフルタイムの場合も、どちらかが**在宅勤務を活用するケースも増加。**

○　多様な働き方の普及により、**高齢者の雇用の場が拡大。**

＜現状認識＞

・　時間外労働も含めた労働時間が長く、家族との時間がもてない。

・　働き方として、フルタイムの正規社員でなければ、パートタイムの非正規社員しかなく、労働条件（給与・社会保険・福利厚生等）にも大きな格差があるため、

①　夫婦の働き方として、「夫が仕事、妻が家事・育児＝１人分」又は「夫婦共働き＝２人分」のどちらかの限定的な選択に。

②　高齢者が生活スタイルに合わせて意欲的に働くことができる場が少ない。

・　上司や同僚に気兼ねし、育児休業や看護休暇が取りづらい雰囲気。企業側も他の労働者へのしわ寄せや代替要員の確保が困難という理由から消極的。

・　育児などでいったん退職すると正規社員としての再就職が困難。

（教育）

○　少子化に伴い、私立を中心に学校間で、**教育内容や学費面での差別化**が進む。

○　学歴ではなく**物事への対応能力や人間性で人物を評価**する社会に。学習の目的意識が明確になり**学び方が多様化**。社会人教育や生涯学習が一般化。

○　**大学生は働きながら学ぶことが主流となり、本人に対する奨学金制度が充実。**

○　小学生の遊び場と安全の確保のため、**学校施設内で地域による子育て支援活動が活発化。**

＜現状認識＞

- 学歴偏重。全般的に学費が高い。子育てコストのうち教育費に対する負担感が強い。
- 大学生が自立しておらず、学費のみならず生活費まで親が工面。
- 小学生が安全に思いきり遊べる場所が少ない。

（住宅）

○ **土地の高度利用（高層化、地下化）**で都市部の地価が抑制されたことにより、**１人当たりの居住面積は拡大。**

○ 都市部では、住宅は、購入よりも**家族の事情に合わせて住み替えできる賃貸が一般的に。**

（自然・環境）

○ 下水道等の普及や汚水処理技術の向上により、**都市を流れる河川の水質が改善し、自然とふれあう場となる。**

○ 電線が地中化されるとともに、河川や運河に建設された高速道路が改修で地下化されるなど都市における景観が重視される。

＜現状認識＞

- 地価は下落しているが、サラリーマンが自宅を購入するのは未だに困難。
- 都市部を流れる河川や水路は、経済面や防災面、安全面など機能的な側面が強調されすぎており、人と自然のふれあいや景観などへの配慮がない。

第2部　２０２５年の高島さん一家の暮らし

登場人物

夫　高島　**健太**　医薬品卸会社　営業職（33歳）（旧姓河原）
妻　高島　**美咲**　出版社勤務　児童書を担当（33歳）
長女　高島　**来夢(らいむ)**　小学校６年生（12歳）
長男　高島　**登夢(とむ)**　保育園児（２歳10か月）

※夫婦の名は、1990年代の命名上位

i

<6:30a.m.>
う、重い・・・。
健太は、何事かと思い、目を開ける。
どうやら寝ている健太の腹の上に、登夢が飛び乗ったらしい。登夢は、にいと笑って、
「パパ朝！」
と一息に叫ぶと起きあがり、ぱたぱたとキッチンに駆けていった。
下の子の登夢は、やんちゃざかりで、時として思いもよらない行動にでる。
健太は、のそりと起き上がるとキッチンに向かった。**今日、妻の美咲は、午前中、在宅勤務の日なので、今朝の朝食当番は、妻。それ以外の日は、健太が朝食当番。**そういう約束。

※男女が家事を平等に分担

テーブルに着くと、来夢と登夢はすでに食事を始めている。健太もゆっくりと席につき、食事を始める。
「おみそ汁、味濃くない？」
「いいんじゃないの。」
曖昧に答える。頭はテレビのオン・ディマンド・ニュース専門チャンネルに集中。
－３年後にせまった日中韓を中心とした東アジアの**通貨統合**について、新通貨の単位を何にするか、政府間での綱引きが激しさを増しています。この問題に関し、一ノ瀬財務大臣は、・・・－

※国際貿易や国際資本移動を一層円滑化するためドルに替わる基軸通貨を目指し導入。

登夢が手がかからなくなるまでは、**健太と美咲が１年交代で短時間勤務をし、２人とも仕事は辞めないことにしている。今は、健太が短時間勤務の番。もっとも、フルタイムの美咲も週に３日は、午前中、在宅勤務**なので、２人で子育てをしているという感じ。

※働き方の多様化が進み、子育て期間中は、夫婦で1.5人分の労働を選択する者が増加。

<7:10a.m.>
健太は、朝食を終えると、決まりきった儀式のように淡々と身支度を済ませる。玄関では登夢が待っている。
「じゃあ、行ってくるよ。登夢、ママに行ってきますは？」
「行ってきま～す！」
笑顔の美咲は、両手の手のひらで登夢の頬をはさんで、優しくさすりながら言った。
「いってらっしゃい。」

ii

一家は、街の中心部から地下鉄で20分程のところに手頃な３ＬＤＫのマンションを借りている。夫婦でローンを組めば、都市部のマンションも十分購入可能なのだが、健太と美咲が学生時代から住んでいるこの街で、子どもの成長に合わせて住み替えていきたいと考えている。

※土地利用の高度化（高層化、地下化）により地価は抑制。１人当たりの居住面積は拡大

健太は、登夢の手をひいて、ゆっくりと歩く。この辺は**車道と歩道が分離**されており、子どもを連れていても安心だ。登夢の歩みは、まだおぼつかないところもあるが、**歩道には段差がなく、**転ぶことは少ない。登夢は、保育園で習ったのだろうか、童謡を口ずさんでいる。ところどころ間違いながら。

※歩行者優先の街作り

※街のバリアフリー化

今日のように、美咲が午前中、在宅勤務をしている日は、こうして健太が登夢を保育園まで送る。つまりは、平日５日のうち３日は健太がこうして保育園まで送っているということになる。
駅の近くの保育園までは、ゆっくり歩いても１０分に満たない。わずかな時間ではあるが、２人のコミュニケーションには大切な時間。登夢は思いついたように、突然、保育園での出来事や友達のことを話すこともあれば、ずっと歌を歌っていることもある。今日は歌いたい気分のよう。

※男女が育児を平等に分担

<7:20a.m.>
「おはようございます。よろしくお願いします。」
「どうも、おはようございます。登夢君、おっはよう。」
「おはよう！」
登夢は大きな声で保育士さんに挨拶をすると、健太にバイバイをして、建物の中に駆けて行った。

※多様な働き方が普及するのに伴って、保育園の預かり時間も弾力化。

保育園の入り口で、**インド人のナムビア父子**、田中父子と一緒になる。健太のように父親が送りに来るのは良くある風景。
「おはようございます。」
「ナマステ。おはようございます。」

※国際結婚が増え、その子どもも増加。

「田中さんは、**育休明けで会社復帰**したんですね。」
「はい、先週から。会社からは定期的に情報をもらっていたんですけど、なかなか慣れないんですよ。」

※男性の育児休業の取得が一般化。

<7:30a.m.>
「ゲート・フリー・システム」が内蔵された携帯を持っているので健太が自動改札に近づくと何もしないでも自動的に改札が開く。
この時間でも車内は意外と混んでいて、なかなか座れない。
とはいえ、雑誌を広げて読むゆとりは十分にある。健太がこの前テレビで見た、かつての「通勤地獄」とは比較にならないくらい楽ではある。あんなアクロバットな体勢で地下鉄に乗るというのは、想像を絶する。

※定期券のＩＴ化
※今後も人口が都市部に集中するため乗客数はそれほど変化しないが、通勤時間の分散化により混雑緩和

<7:50a.m.>
業界紙にざっと目を通しているうちに、**健太が通う営業所の最寄り駅に到着する。**
外に出ると立ち並ぶビルの隙間から朝日がまぶしい。営業所までは歩いて５分ほどだが、健太はその通勤路が気に入っている。かつては、高速道路が覆い被さり、その下を流れる水路が目にとまることなどなかった。**10年ほど前の改修で、高速道路が地下にもぐったおかげで、今はとても明るい、緑いっぱいの水路となっている。**

※職住近接

※1960年代に建設された高速道路の更新では都市景観が重視

iii

<8:00a.m.>
健太は席に着くと、パソコンで**森田からの引継事項を確認する。**
彼は派遣の短時間勤務職員で、健太と入れ替わりで、12時30分から5時30分までを担当している。一昨年まで、同業他社で働いていたが、満60歳を期に退職。その後、１年間は、妻と２人で国内外を旅行したり、好きなピアノを習い直したりの悠々自適の生活だったらしい。

※育児期間中の短期間勤務を選択しやすくするため、派遣労働者を活用し、交代制を導入する企業が増加。
※多様な働き方の普及により、高齢者の雇用の場が拡大

昨夜、「アポイントを申し込んでいた大崎病院の後藤先生。明日朝イチで訪問してください」と、山路から携帯のメールに伝言があったので、急いで準備をし、営業所の倉庫に向かう。
納品する商品は、電子受注システムを通して、昨日のうちに出庫係の山本が倉庫の所定の場所に並べている。
今日の納品は３か所。その前に大崎病院。
健太は、商品をチェックしながら手際よく営業車に載せ、出発する。

20年ほど前に**インターネット発注システムが開発**され、さらに、10年ほど前から**インターネット・テレビ電話が普及**したおかげで、おお

かたのことは足を運ぶことなく済ませることができるようになった。とはいえ、どうしても営業は、フェイス・トゥ・フェイスの関係を疎かにできない。健太も、できるだけ顔をつなぐ努力をしている。

また、**テーラーメイド医療で、患者ごとの診断と各種製造メーカーの医薬品とのマッチング役**として、自らも病院経営に参画しているつもりで、病院に密着した事業展開がますます求められている。

卸売業も決して楽ではない。

※患者の細胞を加工することによる再生医療も含め、患者の遺伝子情報等に基づいて個別の患者ごとの治療法、投薬量などを決めるテーラーメイド医療が普及。

<8:30a.m.>

大崎病院は、中規模の病院ではあるが、複数の診療科があって、地域の中では中核的な存在である。

病院に入ると、事務局に顔を出す。事務局長と軽く世間話をした後、内科の後藤先生を訪問。

「おお、河原君か。季節の変わり目だから風邪がはやってて ね。いつもの点滴薬ずいぶん使ってるよ。」

『河原』は健太の旧姓である。

最近は、**社会保障番号が確認できれば全ての契約で旧姓が利用できるようになったため、仕事上はもちろん、クレジットカードや銀行口座の名義も旧姓のままである。**健太も美咲も姓にはこだわりはなかったが、美咲の祖父が、ひ孫に『高島』姓を名乗らせたいと言ったので、そうしたのだった。

※各人の社会保障情報の提供のために社会保障番号が導入。
※アメリカのように社会保障番号が個人の照合にも活用。
※姓へのこだわりの希薄化

「そうですか。あれは特許切れの医薬品で値頃なのに、品質がいいから患者さんにもお医者さんにも評判いいみたいですね。ところで、先生にアポイントを入れさせてもらいましたのは、このたび、いつも利用していただいている弊社のテーラーメイド投薬のネットワークが拡張されるんですよ。小児科系の医薬品に強い製薬会社の商品・技術もコーディネイトできるようになるので、小児科の先生にもどんどん利用してもらえるようお願いします。」

「そうかね、それはありがたい。うちの病院はテーラーメイドの投薬では地域の先端を走ってきたんだけど、うちの外科部長、この前、うちの病院の規模なら臓器再生はそんなに需要はないかもしれないけど、皮膚再生とかなら需要多そうだって言ってたな。おたくの細胞加工サービス評判良いらしいね。一度話聞かせてもらえないかな。」

「ありがとうございます。是非、では、また改めてお話しさせてください。」

iv

<8:30a.m.>

美咲は朝食の後片づけを済ませると、来夢と一緒に部屋の掃除や洗濯を手際よくこなす。

小学校に来夢を送り出した後、美咲はパソコンに向かう。
会社のサーバーにログインし、在宅勤務の開始手続きをする。

※在宅勤務の時間管理

美咲が勤める出版社は、規模こそ大きくないが、最近では小学生向けの「ロックウェル騎士団の冒険」シリーズをヒットさせている。児童向けの洋書を翻訳し、発行する出版社なのだが、いい本を見つけられれば、会社の大小は関係ない。

また、会社としては、要は期限までにモノができあがればいいわけで、勤務形態はかなり融通がきく。もっとも、裏をかえせば、成果にはシビアとも言える。
社内の男女比は、ほぼ１：１。上司も同僚も育児に理解がある。
先日、登夢が急に熱を出して保育園を休んだときも、快く看護休暇をとらせてくれたのはありがたかった。

※男女共同参画社会の確立
※育児に対する社会的な支援意識の拡大
※看護休暇制度の普及

かつて大流行した、小さい子供への「読み聞かせブーム」は、一時の流行に終わることなく、家庭教育の一環として、小さい頃から親子が一緒に読書をする習慣が定着した。
おかげで、「児童書」というジャンルの市場規模も拡大している。

※家庭教育の充実

美咲にとっては、何より、自分の子どもに自分が手がけた絵本を読んで聞かせるのが楽しみでもあり、登夢は、美咲がアメリカで発掘した作家の「みけねこジョーイ」のシリーズに夢中だ。

絵本の世界に国境はない。だから、優れたものがあれば、海外の絵本も、どんどん日本の子供達に紹介したい。美咲は、先週も、イギリスにいる代理人を通じて、現地で最近注目されつつある絵本作家に日本語版翻訳の話をオファーしている。その際に先方から聞かれていた契約上の詳細事項について回答を作成する。これならＯＫがもらえるのではないだろうか。期待がこもる。

v

＜11:30a.m.＞
「あ、山路君。点滴薬のルジオミン、かなり処方が増えているようだから在庫確認しておいてね。」
健太は上着を脱ぎながらパソコンに向かう部下の山路に声をかける。
「風邪はやってるらしくて、ネットの発注でもルジオミン、結構出てますね。在庫は大丈夫みたいですけど。あ、それと河原さん。この前の浜田薬局の分なんですけど、メーカーから商品が届いたそうですよ。」
「あ、そう。あそこは森田さんも顔がきくから、午後に森田さんに